
令和3年

1月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

多様な担い手づくり

可茂農林 ■ 農業担い手リーダー、農業高校生 井戸「畑」会議の開催

12月24日、農業の現場を学ぶ出前講座事業を活用し、指導農業士等の農業担い手リーダーと加茂農林高等学校生徒との交流を行う「井戸畑会議」を開催し、就農に関心のある高校生14名が参加した。

会議では担い手リーダー及び高校生が3～4名ずつのグループに分かれ、積極的な意見交換が行われた。高校生は自身の就農への夢を語り、担い手リーダーへ農業経営で大切なこと等の様々な質問を行った。担い手リーダーは自身の経営の話や就農に至るまでの体験談など、質問に応えながら様々なアドバイスをおくった。

農業普及課では今後も農業担い手リーダーの活動を支援するとともに、農業高校生へ就農への関心を高める取り組みを継続していく。



【井戸畑会議の様子】

東濃農林 ■ 水稻 担い手の法人化を支援

1月7日及び19日に瑞浪市内で、水稻担い手農家の法人化に向けた打ち合わせを行った。

農林事務所は農業経営者サポート事業を活用し、ぎふアグリチャレンジ支援センターを通じて専門家の派遣を斡旋した。専門家からは法人化の目的に応じた法人形態の選択や、定款作成のための助言を受けた。この担い手農家は2月に法人化し、人材の安定確保などに向けた経営環境の整備を図る予定である。

今後、農林事務所は関係機関とともに、この担い手に対して経営改善のために必要な知識や情報を提供する場づくりなどの支援を行う。



【法人化打ち合わせ】

恵那農林 ■ 夏秋トマト・夏秋なす 個別面談を開催～経営改善に向け検討～

農業普及課ではJA営農指導員と連携し、トマト及びなす生産協議会員を対象とした個別面談を実施している。面談では栽培管理や出荷データをもとに、次年度の経営改善について検討する機会としている。なお本年は、アクリル板の設置や、手指消毒、常時換気などの感染症対策を徹底した上で実施している。

このうち、中津川市加子母のトマト生産者を対象とした面談を1月12日から4日間開催した。昨年問題となった生理障害を改善する施肥設計や追肥の提案、出荷傾向を改善する作型見直し等を農業普及課から提案し、より高収益を得られる栽培に向けて支援を行った。また、栽培歴が短い生産者には経営内容に踏み込んだ状況確認と、個々の就農計画を達成できるように助言を行った。

3月以降に栽培が始まるが、農業普及課では面談時の内容をもとに生産者の経営改善が図られるよう、継続した指導に取り組んでいく。



【トマト三者面談】

下呂農林■水稲 **任意組織の法人化を支援**

下呂市乗政地区の「乗政機械化営農組合」では、今後の営農活動体制の強化を図るため、新たに農事組合法人を設立する方針を昨年夏に決定し、新法人の設立に向けた準備作業を進めている。

1月22日に乗政公民館において第9回法人化検討会が開催された。組合員3名、出資予定者5名の他、農業普及課、農業経営課革新支援専門員、下呂市及びJA担当者が出席し、法人の定款等の内容について検討した。農業経営者サポート事業を活用して派遣された専門家（司法書士）から定款案等について説明を受けた後、疑問点や意見等に対し助言を受けながら内容を検討した。

法人化への準備作業は、3月上旬の設立総会を目標に大詰めを迎えており、農業普及課では今後も関係機関と緊密に連携し、地域の重要な担い手として同組合の法人化及び新法人の運営支援を継続する。



【法人化検討の様子】

飛騨農林■夏秋トマト **生産者を対象とした個別面談の実施**

飛騨地域の各地区トマト部会（高山、丹生川、清見荘川、南大野、吉城、高原）では、部会に加入している生産者全員を対象とした個別面談を、トマト栽培の無い冬期に実施した。

面談は地区を担当するJA営農指導員及び普及指導員が連携して対応し、作型、品種、施肥設計、管理の方法、病虫害対策等について個々の実態を整理し、次年度作に向けて問題点の改善やさらなる発展に向け目標設定を行った。

設定した目標は、次年度作における巡回で達成に向けて助言する予定である。特に高山地区では、設定した目標を個々のほ場にプレートで掲げるため、部会員の目標達成に向けた意識向上が図られている。



【個別面談の様子】

売れるブランドづくり

岐阜農林■だいこん **スマート農業機器の試用**

1月8日、JAぎふ則武支店においてだいこん部会の役員会が開催され、2月に行われる総会（紙面にて開催予定）に向けて内容や行事計画の検討が行われた。

その役員会終了後にスマート農機貸出事業で借受けたアシストスーツの試用を行った。ATOUN MODEL Y(ATOUN社)及びEvery(INNOPHYS社)をそれぞれ着用し、作業性や腰への負担軽減の程度を確認した。9日以降のだいこんの収穫・荷積み作業にて2名の役員が1週間毎に試用している。農業普及課では効果の調査・確認を行っている。



【動作を確認する役員】

西濃農林■加工業務用キャベツ **排水対策試験ほ調査**

水田を活用した加工業務用野菜の生産が土地利用型経営体を中心に定着しつつあり、農林事務所はJAと連携して巡回指導や各種実証試験に取り組んでいる。

12月22日には、養老町の排水対策実証ほ場において、収穫調査を実施した。キャベツの栽培前に直根系のマメ科植物「セスバニア」を作付けた区では、慣行区と比べ降雨後の水の引きが良好になり、収穫可能な株が増加し、根の張り具合、玉の大きさとも良好な結果となった。

水田において畑作物を栽培する上で排水対策は重要であり、今後も、関係機関と連携して、実証結果の情報提供を行うなど栽培支援をしていく。



【試験ほ場の収穫作業】

揖斐農林■茶 ASIAGAP 内部監査を全契約農家で実施

(農) 桂茶生産組合では、ASIAGAP 管理点と適合基準に則り、内部監査資格を持った組合役員による内部監査を年1回実施している。内部監査は、全契約農家31軒の農薬・肥料の取り扱い状況、書類の整備と記録状況の確認・指導するもので、本年は1月13日から22日まで行われた。組合では3月上旬に外部審査を実施することにしており、契約農家はこれに向けて内部監査で受けた指摘事項の是正を行う。

農業普及課は監査方法の事前打ち合わせ、監査初日に行われたシャドー監査(監査方法の現地検討)に加わり、農薬の適正使用等、重点的に確認すべき事項等について助言を行った。



【緊張感ある内部監査】

中濃農林■いちご 第46回「岐阜県いちご共進会地方審査」を実施

1月22日、中濃いちご生産組合14戸から推薦された2戸のほ場で「岐阜県いちご共進会地方審査」が実施され、地方審査長である農林事務所長及び審査員の農業普及課職員等が、現地にて生育状況や管理状況を審査した。

2戸のうち1戸は高設栽培、1戸は土耕栽培であり、2戸ともに天候等に合わせて適正に栽培管理されていることが審査結果に反映された。

今後、県審査へ進み、出荷販売実績の調査や出荷物の実物審査が行われ、総合点数により入賞者が決定される。中濃いちご生産組合から入賞者が選出され、地域の模範農家として活躍することが期待される。



【審査の様子】

郡上農林■スマート農業 スマート農業実証プロジェクトの紹介動画を作成

「ひるがの高原だいこんスマート農業実証プロジェクト」の進行管理役である農業普及課では、本年度に実施した自動運転トラクタでの耕起やアシストスーツを着用した収穫作業などの記録映像を編集し、「ひるがの高原から広がるスマート農業」と題したプロジェクトの紹介動画を作成した。

動画にはプロジェクト紹介に加え、実証で使用したスマート農業機械の評価などもまとめてある。YouTubeの専門チャンネルに登録し、主に農業大学校生に対する、コロナ禍でのリモート学習の教材として利用する計画である。その他、県内の各農業高校への配布や、郡上市内ケーブルテレビでの放映なども予定している。

農業普及課では今後も様々な機会を活用し、プロジェクト成果のPRとスマート農業の普及に取り組む。



【作成した動画の一部】

革新支援センター■加工・業務用野菜 関係機関によるたまねぎ病害虫対策会議を開催

県内のたまねぎ生産では一昨年からのたまねぎりん片腐敗病が多発した。更に昨年は、他の病害や生理障害等も多く見られ減収となっている。

そこで1月25日に、JA全農岐阜、農業技術センター及び農業経営課の担当者により、加工業務用たまねぎの病害虫対策会議をウェブ方式にて開催し、減収要因について病害虫の専門家からアドバイスを受けるなど対策検討を行った。今後は、現場の営農指導員や普及指導員が病害等の見分け方の技術を習得することにより、減収要因を正確に把握し、対策を検討することとした。



【WEBによる会議】